

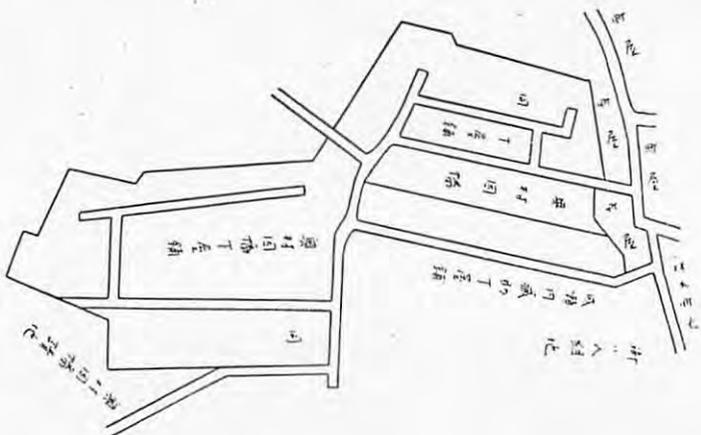
已。名各殊于今。而識之甚難也。以官藏採藥式之名。附其各條也。而扶神古之惠方於今者矣。夫醫者以大己貴之德視之。據少彦名之功察之。則病必退而已。とあるにても、吾が皇國上古以來、大己貴、少彦名兩神の神方は、神代よりの遺方となし、諸病の靈藥となしたりしこと知られけり。さて藥師は、光明皇后佛足跡の歌に久須理師とよみ給ひ、日本紀孝徳の卷に學得醫術因號藥師とありて、醫をいへり。

○塔頭源性院

永福寺由來書に云ふ塔頭源性院は、慶安元年永福寺十代州安和尚弟子慶寮長老建立也。とあり。三箇屋版六用集にも、塔頭源性院と載せたり。然るに明治六年無檀無住の寺院廢止の官令により、外寺々の塔頭と共に、伺の上破却せられたり。

○奥村因幡下邸跡

延寶金澤圖に如下記載す。奥村因幡易英は、伊豫守永福の二男にて、一萬四千五十石を領す。寛永二十年歿す。此の時賜はりたる下邸なるべし。其の地元は田井の村地なりとい



へり。さて夫れより世々家士共居住せしかど、明治四年下邸の名稱を廢し、町名を建て九枚町と呼べり。奥村氏の紋章九枚笹なる故也といへり。

○唐人屋敷

龜尾記に云ふ。奥村内膳の下邸圍中に、唐人屋敷と云ふ所あり。奥村氏家中の人に尋ぬるといへども、其由縁を知るものなしと。按ずるに、昔朝鮮征伐の時、擒にしたる朝鮮人多く來る中にも、脇田如鐵、菅野氏など加州へ來り、奥村快心入道へ預けられ、爰に置きたるならんか。今名高き庄田の萬金丹は、奥村氏の家士庄田某の製藥にて、快心入道へ預けられたる朝鮮人の傳方也と云傳へたりと。平次按ずるに、朝鮮陣の時擒と成り金澤へ來りたる者、脇田如鐵の外に、小川久次、金子萬右衛門、市村清六、高麗孫三郎、成瀬小八郎など、皆高麗人なるを、合戦の時擒と成り、後金澤へ來り、姓名を改稱して舊藩二世利長卿に仕へたり。此の外にも水天齋并に名倉不亂、此の兩人も高麗人にて、朝鮮征伐の頃彼國より來り、後金澤に居住す。水天齋は七右衛門と改名して町人と成り、豆腐商賣人と成る。名倉不亂は

外科醫と成り、利常卿に仕へ、家祿百石を賜はると、寶永三年九月高麗人子孫穿鑿に付き、町奉行よりの言上書に記載す。朝鮮擒の者、奥村快心へ預けられし事日記に所見なしといへども、實にさる事ありしならば、前顯の人々の中ならんか。尙追考すべし。

○奥村氏別荘址

林氏鷲峰文集に載せたる畊心莊記に云ふ。畊心莊者、加州之老平恭師儉退食偶遊之處也。恭從邦君在江府之間。請余執師資之禮。圖莊中所有而求記。其地違此。猶秦楚之路。然聞其所語。則千里猶咫尺。以其志相通乎。恭之言曰。莊在田井邑。古語不云乎。畊心田者日々豐年。曾聞。畊字古作畊。故寓彼意合邑名之字。以畊心扁之。莊中構宇藏書。號蓄德府。又貯兵器號止才庫。縱送之圃。磬控之場。曰釋志。曰範驅。迎客接遇之堂曰德始。新浴潔身之室曰振衣。東北之墩名良。斜對之池名異。門稱景陶。以栽柳也。沼稱晞周。以愛蓮也。細々風香。亭々獨秀者、萬竹之徑孤松之塢也。北隅有園。取適種之語。東維有田。舍後獲之義。居敬疆齋。欲存眞獨之戒。祭報先廟。不忘追遠之志。望金澤